

**第6回**  
**加茂市立小中学校**  
**適正規模等検討委員会**

○ 日 時 令和4年6月29日(水) 14:00～

○ 会 場 加茂市役所 5階 全員協議会室

## 第6回 加茂市立小中学校適正規模等検討委員会 名簿

### 委員

(敬称略)

No.	選出区分	氏名	所属等	グループワーク	備考
1	学識経験者	遠藤 英和	新潟大学大学院教育実践開発専攻(教職大学院)特任教授	巡回	
2	学識経験者	滝沢 茂秋	加茂市議会議長	①	
3	地域関係者	中村 幸一	七谷地区区長会長(上高柳区長)	-	欠席
4	地域関係者	中山 勇	加茂地区区長会長(新栄町区長)	②	
5	地域関係者	皆川 輝一	下条地区区長会長(横江区長)	-	欠席
6	地域関係者	土田 秀男	須田地区区長会長(後須田第3区長)	④	
7	学校関係者	小畑 一二美	小学校校長(加茂小校長)	②	
8	学校関係者	平野 政幸	中学校校長(葵中校長)	③	
9	保護者	阿部 奈穂子	未就学児保護者(本量寺こども園保護者会)	①	
10	保護者	亀山 弘子	小学校PTA(加茂小PTA)	③	
11	保護者	茂野 芳子	中学校PTA(七谷中PTA)	-	欠席
12	保護者	中林 利恵	小学校PTA(下条小PTA)	④	
13	保護者	樋口 明宏	中学校PTA(須田中PTA)	-	欠席
14	その他	市村 正子	加茂市民生児童委員協議会副会長	④	
15	その他	高畑 結城子	加茂市商工会議所事務局長	④	
16	その他	目黒 悦子	加茂市役所商工観光課課長補佐	①	
17	その他	小出 浩輔	公募	②	オンライン
18	その他	笹川 裕子	公募	③	
19	その他	松原 啓	公募	-	欠席

### 教育委員会事務局

職名	氏名	グループワーク	備考
加茂市教育委員会 教育長	山川 雅己	①	
加茂市教育委員会 庶務課	課長 草野 智文	巡回	
	課長補佐 長澤 敦	③	
加茂市教育委員会 学校教育課	課長 阿部 一晴	④	
	課長補佐 吉田 国義	-	
	係長(指導主事) 廣野 達也	②	
加茂市教育委員会 社会教育課	課長 有本 幸雄	-	
加茂市教育委員会 スポーツ振興課	課長 五十嵐 卓	-	

### 教育委員(オブザーバー)

職名	氏名	グループワーク	備考
加茂市教育委員(教育長職務代理)	乙川 智子	②	オンライン
加茂市教育委員	田邊 俊樹	①	
加茂市教育委員	藤田 和子	②	オンライン
加茂市教育委員	太田 正純	③	

## 第6回 加茂市立小中学校適正規模等検討委員会 次第

日 時 令和4年6月29日(水) 14:00～  
場 所 加茂市役所 5階 全員協議会室

### 1. 開 会

### 2. 会長挨拶

### 3. 議 事

I 行政視察（埼玉県志木市）と第5回加茂市立小中学校適正規模等検討委員会（市外小中学校視察）の報告等

II 加茂市における望ましい教育環境等について （グループワーク）

テーマ：「10年後の加茂市の教育環境・学校施設は？」

### 4. その他

### 5. 閉 会

## 行政視察等 報告書

- 1 視察年月日 令和4年5月17日(水)・5月18日(木)
- 2 視察先等 5/17(水)…行政視察（小学校・公民館・図書館の学社融合施設）  
志木市立いろは遊学館・志木市立いろは遊学図書館・志木小学校  
5/18(木)…学校と公共施設との複合化・集約化に係る制度改正等について  
文部科学省（文部科学省会計課長と面会）
- 3 視察者 加茂市教育委員会事務局 山川教育長・草野庶務課長・阿部学校教育課長・  
長澤庶務課課長補佐  
(5/18(木)文部科学省：藤田市長・宮澤建設課長とともに訪問)

### 4 視察の概要

#### 1日目 (5/17 (火))

##### ○ 視察先

志木市立いろは遊学館・いろは遊学図書館・志木小学校

##### ○ 目的

加茂市では小中学校の適正配置について検討しているが、他公共施設の老朽化も問題視されている。埼玉県志木市における先進的な取り組み（小学校と公民館、図書館を複合化し、地域と一体となった教育活動を展開）を学ぶ。

##### ○ 説明

- 志木市においても昭和40年代の高度成長期を中心にインフラを整備したが、少子高齢化に伴う需要の変化、維持改修費の増大等の問題を抱えていた。
- 特に、志木小学校・志木公民館・志木図書館の老朽化・耐震化問題の解消を図るため、3施設の複合化を検討、学社融合の教育施設を目指した。
- 教育長の「これからの学校教育は、地域の協力のもとに行い、地域で子どもたちを守り育てる」「子どもの安全性も複合施設となれば、大人の目が多くなり小学校単独よりも高まる」という強い思い。
- H9.5…庁内プロジェクトチーム設置、H11.1…市民検討委員会設置、H11.3…基本構想策定、H11.7…プロポーザルによる設計者選定、H15.3…合同竣工式（約6年経過）

##### ・建設に係る経費

・支出額		3,261,354千円
・歳入額	国庫支出金	524,482千円
	県補助金	49,400千円
	地方債	1,786,000千円
	一般財源	901,472千円

- 防犯対策：1校2館の複合施設では多数の職員が配置されるとともに利用者である市民を含めた多くの大人の目があることから、学校単独施設よりも安全性が高まっているのではないかと。（他、防犯監視カメラ設置、警備員の常駐、全職員PHS所持、入館証着用、年3回合同避難訓練実施により大小合わせて事件は1件も起きていない。）
- 学校の特別教室の有効活用により、市民の生涯教育をより積極的・効率的に推進している。（小学校にも、休館日には公民館・図書館を寡占できるというメリットあり。）
- 地下に防災倉庫を備え、災害対策本部機能を持ち、地域のコミュニティ形成に貢献している。
- 期待できる教育効果：学社融合事業の展開（祭り、人権講座、給食等における交流）⇒施設内の人的・物的のすべてが教材に
  - 学校と公民館・図書館との交流を通じて子ども達の学習・体験活動の幅を広げ、「学校教育の社会化」を展開する。
  - 地域の方々が生涯学習の一環として施設を利用するなかで児童との交流が図られ、児童と市民の双方の教育の相乗効果が期待できる。

#### 埼玉県志木市

市制施行	昭和45年10月26日
面積	9.05k㎡
人口	76,349人 (R4.4.30現在)
児童数	4,134人 (R4.4.1現在)
生徒数	1,751人 (R4.4.1現在)
学校数	小学校：8校 (151学級) 中学校：4校 (56学級)
世帯数	35,872世帯 (R4.4.30現在)

#### 志木市立志木小学校

創立	明治7年7月
児童数	850人 (26学級+特支4学級)
※ベッドタウン化→5年後には200~300人増?	





左) 小学校 右) 公民館・図書館



普通教室棟はオープンスタイルで廊下側の間仕切り無し



開放的な職員室



小学校⇄図書館 行来は自由



図書館 休み時間は児童が受付の手伝いもする



特別教室は一般市民と併用



小学校入口の警備員室



監視カメラ映像は公民館事務室で随時確認

## 2日目 (5/18 水)

- 訪問先 文部科学省 (会計課)
- 目的 学校施設と公共施設の複合化・集約化に係る制度改正 (補助率の引き上げ) を学ぶ。
- 説明 (会計課長、課長補佐)
 

学校施設を中心に公共施設の複合化・集約化に取り組むことで、公共施設の総面積の削減と施設整備費等のコスト削減が図られることから、補助率の引き上げを行なう。

  - ・対象事業…改築事業、長寿命化改良事業 : 現行 1/3 ➡ 引上げ後 1/2
  - ・対象施設…小・中学校、義務教育学校、体育館等

## 第5回加茂市立小中学校適正規模等検討委員会（市外学校視察） 報告書

- 1 開催年月日 令和4年5月30日(月) 11:50~17:40
- 2 視察先 長岡市立東中学校（長岡市水道町5-1-1）  
三条市立嵐南小学校・第一中学校（三条市南四日町1-1-1）
- 3 出席者 委員： 遠藤英和委員（会長）・平野政幸委員（副会長）・滝沢茂秋委員・中村幸一委員・皆川輝一委員・小畑一二美委員・阿部奈穂子委員・亀山弘子委員・中林利恵委員・樋口明宏委員・市村正子委員・目黒悦子委員・笹川裕子委員（13名）  
事務局： 山川教育長・草野庶務課長・長澤庶務課課長補佐・廣野学校教育課係長（指導主事）（4名）

### 4 視察の概要

#### ■ 長岡市立東中学校（13:00~14:40）

- 生徒数：294人 ■ 建築年：平成20年（校舎・屋内運動場）  
■ 学級数：10学級 ※R4.4現在

#### ○ 目的

- ・災害避難所との融合、教科教室型方式、コミュニティースクール等を学ぶ。

#### ○ 内容

##### □ 災害避難所との融合

- ・中越大震災の発生後に建て替え工事を実施しているが、建て替えにあたっては地震の教訓を活かし、大規模な災害発生および長期間の避難所設置を想定した多くの内容をコンセプトに取り入れている。
- ・電力、ガス…LPガス変換機の設置、外部からの電源確保等
- ・災害時用の水の確保…飲料水用受水槽設置、雨水貯留槽設置等
- ・ビッグルーフの設置…2階分の高さを持つ半屋外スペースであり、けが人搬送、救援物資搬入が円滑にでき、平時は部活動の練習場等として利用。
- ・避難エリアの充実…昼敷きスペース（武道場）、授乳等プライバシーを配慮したスペース（特別活動室）
- ・教育活動に活かしている取組…市、学校、住民が一体となった訓練を実施。

##### □ 教科教室型方式

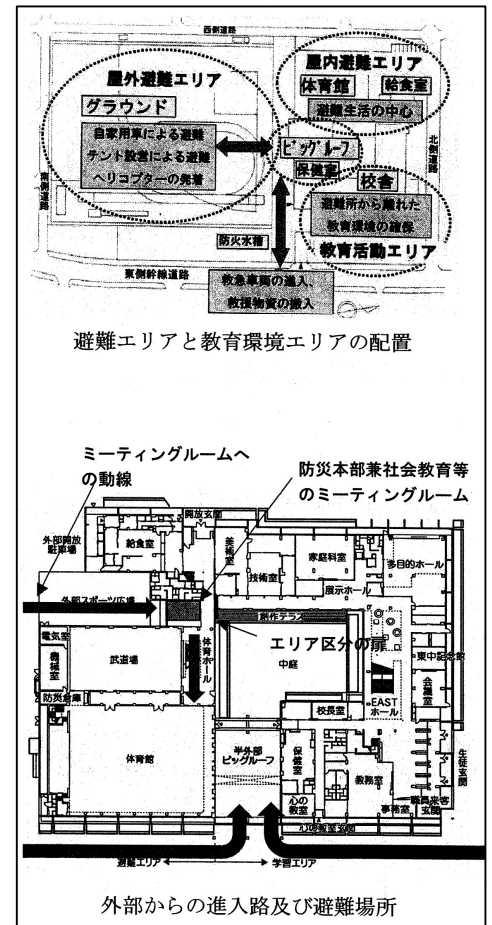
- ・メリット…①それぞれの教科に特化した教室であり、教科の掲示物や教材をそのままにできる。②移動を伴うことによって、「次は国語の授業だ」という意識を持つことができる。③教科や授業内容に応じた座席や机のレイアウトなどをそのままにできる。④教科担当教員が授業や教材の準備をしやすいため、授業の質を上げることができる。
- ・特別支援学級の生徒は戸惑いやすい。

##### □ コミュニティースクール（地域との連携等）

- ・「東中の未来を語る会」…年間3回開催、教育活動について話し合い、地域と学校の協働の可能性を検討。
- ・「東中応援し隊」…勤労体験受入先、部活動指導者紹介、教科の広場指導者紹介 等

##### □ 部活動

- ・校外からの指導者を入れ始めているが、学校として特別に部活動に力を入れていることはない。
- ・生徒数減に伴い、部活動の今後の在り方を検討している。





■ **三條市立嵐南小学校**

■ **三條市立第一中学校**

(15:30~17:10)

- 児童数：809人
- 学級数：26学級

- 生徒数：430人
- 学級数：15学級 ※R4.5現在

- 建築年：H25.3 (H25.4開校)
- ※嵐南小：四日町小・条南小・南小が統合

○ 目的

- ・小中一貫教育、コミュニティースクール等を学ぶ。

○ 内容

□ 小中一貫教育

- ・いわゆる「中1ギャップ」の解消→小1から中3までの9年間（4・3・2制）を通して学力向上・生徒指導等の充実を目指した。
- ・教育制度等検討委員会の答申を踏まえ、平成20年8月に小中一貫教育検討委員会を設置、検討、準備を重ね、平成25年度から全中学校区、全小学校で実施。（9中学校区（小24・中9））
- ・小中教職員協働による授業
  - ① 小中合同授業…9年間の学びのつながりを意識した授業改善→指導観の変容
  - ② 乗り入れ授業（小⇄中）
    - 〈小学生〉教科の専門性を生かした中学校の先生の指導→興味・関心の高まり、より深い学習内容の理解
    - 〈中学生〉懐かしい小学校の教科書、小学校の先生の指導→学習意欲の高まり・安心感
- ・成果…①小学生の中学校生活への不安軽減。②中学生の自己有用感が向上。③児童生徒の学習意欲が向上。③9年間のつながりを意識した授業を実施。
- ・課題…児童生徒の故郷への愛着や地域の方との活動への積極性があまり見られない。

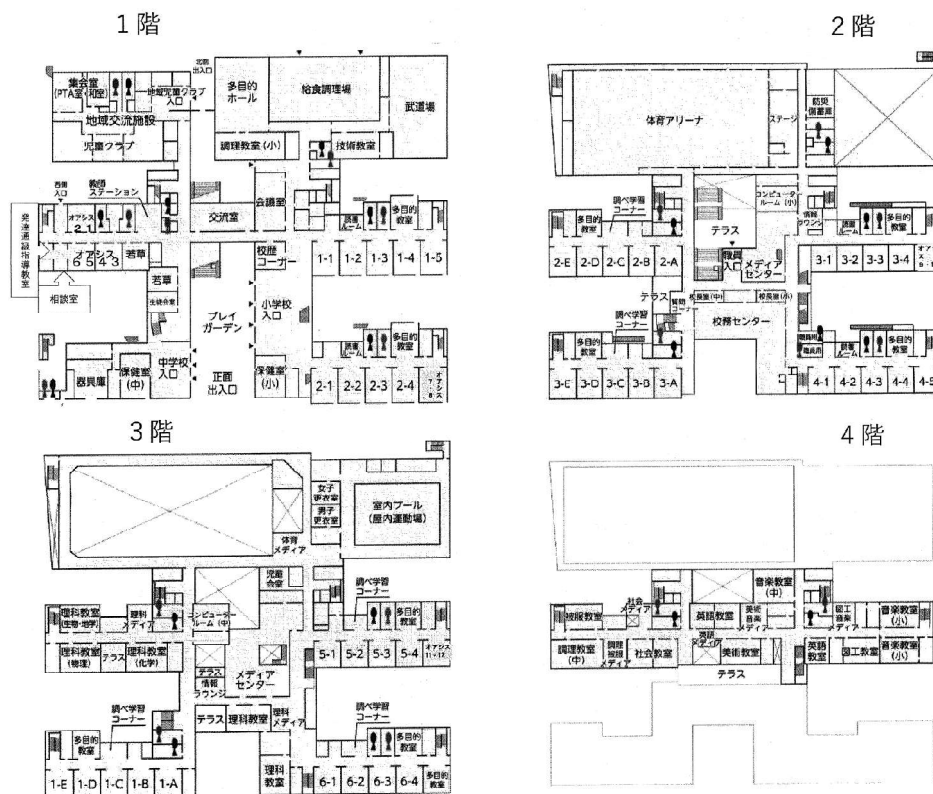


□ コミュニティースクール

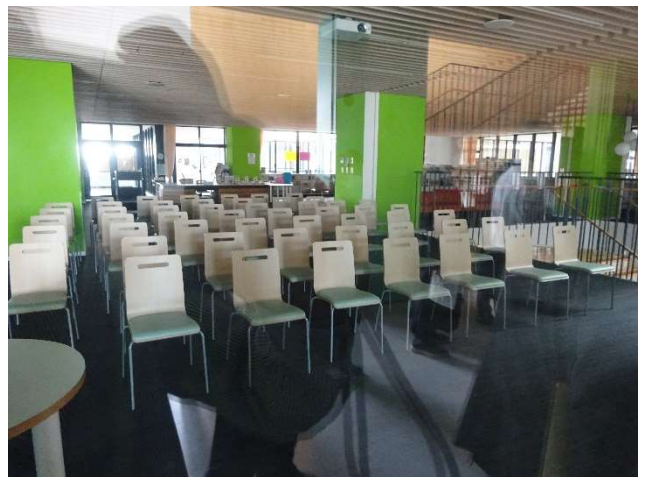
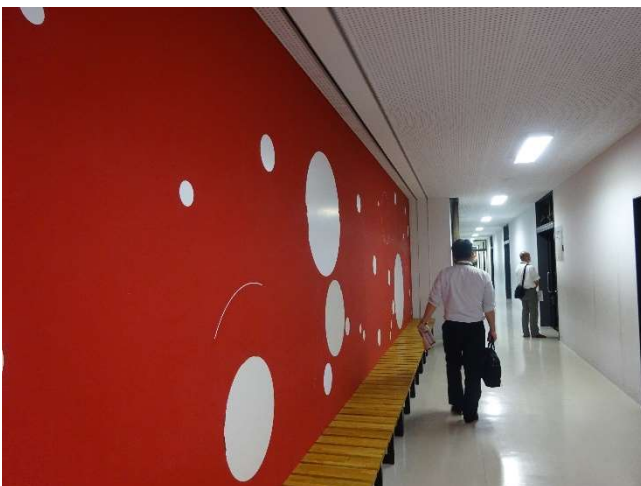
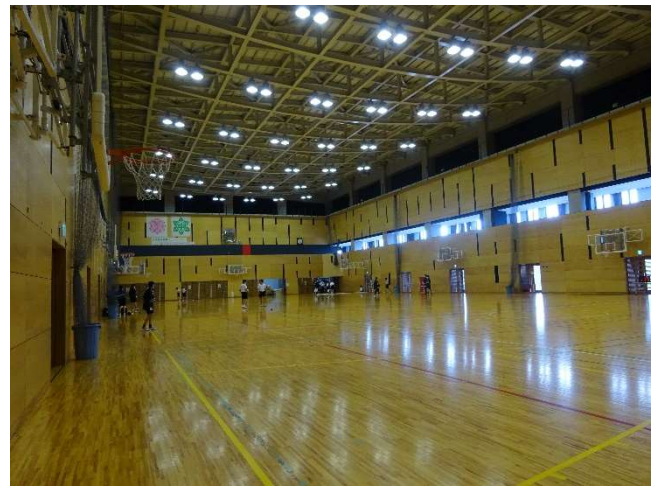
- ・地域、保護者、学校の代表から構成。（15人以内）
- ・地域の子どもの育成について建設的に意見を述べ合い、学校運営に反映。
- ・「地域とともにある学校づくり」→学校や地域の教育力の向上
- ・「熟読」（目標と取組の共有・役割の明確化）→「協働」（それぞれの立場から取組を実行）

□ その他

- ・統合に伴い学区が広範囲であるため、小学校4km以上（中学校6km以上）かつ1時間以上のエリアにはスクールバスを運行。







## 第5回加茂市立小中学校適正規模等検討委員会 (市外小中学校視察)

～ 委員よりいただいた視察後の感想 まとめ ～

【R4.5.30開催】

■ 長岡市立東中学校

■ 三条市立嵐南小学校・第一中学校

## 1. 視察終了後の質問と回答

■Q1：コロナ禍であり頻度は減少していると思うが、児童生徒の交流活動は効果的・積極的に行われているか。(例：あいさつ運動の進め方、中1ギャップ解消のための小6と中1の交流など。)

■A：〔長岡東中〕 小6が来校する機会は、部活動体験(10月)いじめ見逃しスクール集会(11月)、体験入学(1月)とあります。コロナ禍ではリモートを活用して交流を行った。あいさつ運動は毎朝実施するとともに、各小学校、地域に出掛けて行った。

〔嵐南小・第一中〕 あいさつ運動は距離をとって実施している。保護者は学校に集合せずに、登校時に登校班の集合場所であいさつ活動を行った。また、児童生徒の交流活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から控えているが、昨年度の取組として小6と中1が掲示板上でメッセージ交換を行い、小6から中学校生活についての質問を送り、中1がメッセージを返す、というやり取りを実施した。

■Q2：校内では児童生徒が積極的にあいさつを行っていたが、校外ではどの程度行っているか。

■A：〔長岡東中〕 上記のようなあいさつ運動は行っているが、あとは生徒が地域の方々にあいさつする姿は自然に見られる。知っているだけでなく、すれ違う方に自然にあいさつできる生徒は多いと思う。

〔嵐南小・第一中〕 あいさつの校外での様子や取組について、三条嵐南学園の学園運営協議会で決めたあいさつ運動は令和3年度から始めている(感染症対応のため、年度の途中に開始した)。また、従来から行われている登下校の「見守り隊」の方とのあいさつは、通常どおり行われている。

■Q3：長岡東中学校の改築期間はどのように教育活動を行っていたのか。

■A：〔長岡東中〕 当時、勤務していた職員がいないため断定的なことは回答できないが、旧校舎のグラウンドに建設して校舎はそのまま残っていたので、部活動や運動会は周辺の学校やグラウンドを借りていた。

■Q4：三条市立嵐南小学校・第一中学校の小中一貫校へ学区外から通う児童生徒がいるのか。また、いるとすれば、その理由は。

■A：〔嵐南小・第一中〕 学区外から通う児童生徒はいる。小学校の場合は、祖父母が嵐南小学区在住のため、放課後子どもを見てもらいやすい、というケースがある。中学校は部活動のために学区外就学を選択するケースがある。また、三条嵐南学園は他学園に比べて中国出身の児童生徒が在籍している。中国出身や中国をルーツにもつ児童生徒が転入する際、保護者同士のつながりを理由に三条嵐南学園を選択するというケースもある。

■Q5：同じフロアでの小中教職員の交流や雰囲気はどのようなものか。

三条嵐南小学校・第一中学校は教務室が一緒であるが、合同の指導案検討、のりうけの授業等、どれぐらいの頻度で行われているのか。また、小中の教職員の会話(何気ない事、児童生徒の連絡等)は日常化しているのか。

■A：〔嵐南小・第一中〕

- ・小中学校教職員の交流はある。主に子どもの情報交換を行っている。何気ないコミュニケーションも行われており、雰囲気は良い。必要な時に児童生徒の指導歴、家族環境、兄弟関係など共有できるメリットは大きい。
- ・合同研修が春と夏に行われ、その他に公開授業に向け不定期に教科部会を行っている。
- ・乗り入れ授業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2年ほど行われていない。

■Q6：三条第一中学校の卒業生で、高校進学時に苦労した話があれば教えて欲しい。小中9年間同じメンバーであるため、仲の良い子は固定すると思われる。中学校入学後、新しい友達との関係づくりを経験できないとなると、高校入学後に影響がないのか気になった。

■A：〔第一中〕 第一中学校に在籍していたことが理由で高校進学時に苦労したという話は聞いていない。1学年あたり的人数が多く、毎年クラス替えを行っているため、人間関係の固定化はあまりない(仲の良い人間関係は当然築かれていく)。

■Q7：小中一貫校・多人数であるがゆえ、児童生徒・保護者の意見がまとまりにくいイメージがあるが、学校として工夫している点はあるか。

■A：〔嵐南小・第一中〕 PTA活動については、PTA役員が中心になってまとめている。まとまりにくいということはない。学校もPTA役員とコミュニケーションをとるようにしている。

■Q8：三条嵐南小学校・第一中学校はPTA行事（運動会・体育祭・文化祭等）について、どのように行われているのか。

■A：〔嵐南小・第一中〕 PTA行事は別々に実施している。コロナ禍以前は、小中PTAが年1回合同懇親会をもち、交流していた。

- ・運動会は小学校と中学校で別々に実施している（小学校は10月、中学校は9月のため、PTA行事としても別々である）。
- ・避難訓練は小中合同で実施している。
- ・小学校の運動会に、中学生が用具係として参加し、活動をサポートしている。小学校が募集し、中学生有志が参加している。
- ・文化祭も小中別々に実施している。
- ・コロナ禍以前は、小学5・6年生が中学校の合唱コンクールの学年リハーサルを見学する活動をおこなっていたが、現在は行われていない。 ※合唱コンクールは休日開催。

■Q9：コミュニティー・スクールを導入したことで、学校運営協議会からの意見等を取り入れて改善された点や地域と学校との繋がりに変化があったか。

■A：〔長岡東中〕 学校運営協議会では様々な提言をいただいております、その提言をA～Cに分けて実現性について協議している。一例としては、1年生の複数担任制を採用したのは提言からの取組である。地域との繋がりについては、元東中学校PTA役員から結成される「東中応援し隊」の皆様が様々なゲストティーチャーを紹介してくださったり、ミニコンサートの演奏者を探して下さったり、地域の方の作品展を集めてくださったりと、地域とのパイプ役を担ってくださっている。

〔嵐南小・第一中〕 三条嵐南学園においては、学園の運営方針やその活動の内容、児童生徒の状況について理解を深めていただけてきた。学園の活動としての「あいさつ運動」を、さらに生き生きと元気のあるあいさつを交わすために活性化させましょう、という意見がある。他の学園では、フラワーロード活動の内容や「心と学びのフォーラム（地域・保護者向け講演会）」の内容など、学園の特色に合わせて意見を取り入れている。

■Q10：他校の児童生徒・教職員が貴校の環境をどのように感じているか。また、他校から赴任した教職員が戸惑ったり順応できなかつたりした例はなかったか。

■A：〔長岡東中〕 他校のことは分からないが、私（教頭）が市内の他の学校に勤めていた時は、自らの学校に誇りをもって生活していた。東中学校は切磋琢磨するライバルではあったが、特別な意識はしていなかった。教職員の勤務環境は教科スペースがあるなど他の学校に比べ充実しているので、困ることは無いと思う。ただし、様々な研究会をはじめ来校者が毎日のようにたくさん来る学校であり、その点で戸惑う職員はいるかも知れないが、良い意味で誇りをもって勤務をしている職員ばかりと自負している。

〔嵐南小・第一中〕

○公開授業の参観で訪れた他校の職員から、施設面で、図書室、室内プール、駐車場（第2グラウンド）をうらやましがられたことがある。

●グラウンドや体育館など、施設使用の調整が難しい。

●小学校と中学校の活動で、音が気になる時がある。例）小学校が学校行事をしている時に、中学校がテストをしている。小学校が保護者面談をしている時に、廊下で中学校が部活動をしている。

➡小中学校の教務主任が調整し、各職員に提示して、トラブルの未然防止に努めている。

➡校舎の広さや子どもの数、教職員数の多さに戸惑うこともあるが、徐々に慣れている。

■Q11：誰が長岡東中学校建物をデザインしたのか。

■A：渡部和生・木村博幸／惟建築計画・長建設計事務所 共同企業体

## 2. 教育環境・学校運営・地域との連携・建物等に関する感想

委員名	感想等
	<p>【三条嵐南小学校・第一中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 施設一体型の小中一貫教育校の嵐南小学校と第一中学校では、建物の大きさに驚いた。</li> <li>➤ 高層で堅牢な建造物であり、校舎というより近代的なオフィスビルといった雰囲気。保守点検や日々の防犯点検業務に相当な負担があると思った。火災や地震災害で避難が必要な場合、子ども達がスムーズに避難できるのか不安。</li> <li>➤ 視察当日もスタッフが居ないと、どうすれば外に出られるのか分からなくなりそうだった。</li> <li>➤ 「適正規模」という観点で見ると、「大きすぎる」ことのデメリットを感じた。有効に使われていない特別教室が多いのではないかと。屋内外の移動に時間がかかるのではないかと。</li> <li>➤ 広い体育館とはいえ1つしかなく、複数の集団・活動が干渉しあうため、中くらいの体育館2つのほうが良いのではないかと。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「何のために」という目的やねらいしだいでは、これまでの校舎の概念を取っ払った奇抜な校舎もありだと思った。</li> <li>➤ 新しい建物・明るい建物であるだけで気分が明るくなり、やる気が出るものだった。</li> <li>➤ 今後、部活動は地域移行していくことになるだろうが、受け皿や人材、必要経費など問題は山積みしているように思われる。</li> <li>➤ 学区毎のコミュニティーが学校運営の一端を担っていると感じた。これを加茂市に置き換えると、葵中学校区と加茂中学校区の小学校が重なっているため、学区コミュニティーを作りづらい。(更に言えば、無理だと考える。)コミュニティーを考えると、この2学区の一本化を実現する必要性を痛感する。</li> </ul>
	<p>【長岡東中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 教育環境 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 防災機能が整備され、普段から防災意識をもって活動ができて良いと思った。</li> <li>➤ 教職員や生徒は伸び伸びとした教育環境であるように感じた。</li> <li>➤ 教職員・生徒・地域の皆が誇りを持っており、それは子ども達が大人になってからの地域を盛り上げていくうえで大切なことだと思う。</li> </ul> </li> <li>※ 学校運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 防災機能設備、教科教室型の学校として、今の時代に不可欠な学習を取り入れた学校を運営していたり、以前から習慣にとられない新しい学校づくりを考えて取り組んでおり、大変参考になった。</li> </ul> </li> <li>※ 地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コミュニティー・スクールの理念が根付いていると感じた。OB・OGやPTAとの結びつきが強く、保護者側だからこそできる子ども達へのサポートができている。加茂市の地域性からみて近いものを感じる。</li> <li>➤ 地域防災力としても、普段から学校と地域が同じ施設を共同で使用し、学校施設や生徒の様子を理解しておくことは緊急時において必要なことである。</li> </ul> </li> <li>※ 建物 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 防災機能が整備され、雨水貯留槽や飲料水受水槽が学校に設置されていることは、メンテナンス等が大変だと思うが、心強い。</li> <li>➤ 防災面の設備は長岡市の管理下であり、学校と市との防災機能、意識を共有することは大事である。</li> </ul> </li> <li>※ その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ガラス張りの建物は暑さ・寒さが強いが、何より明るく、教職員・生徒も明るく活き活きとしている印象。</li> <li>➤ 中庭を中心にどこからでも学校全体を見渡すことができ、開放的でありながらも繋がりを感じられた。</li> </ul> </li> </ul>

	<p>【三条嵐南小学校・第一中学校】</p> <p>※ 教育環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 小中一貫校教育により、中学校生活への不安が少なく、安心感をもって移動できるのではないか。</li> <li>➤ 大勢の児童生徒・教職員のなかで学校生活を送ることで、児童生徒の個性が稀薄にならないか心配であるが、学習レベルの向上や社会性を身につけるには必要なことだと思う。</li> </ul> <p>※ 学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 小中一貫校・多人数であるがゆえ、児童生徒・保護者の意見がまとまりにくいイメージがある。</li> </ul> <p>※ 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 人数が多いと、地域のコミュニティー力もまとまりにくく、形だけにならないようにしなければならない。地域が学校のことを無関心・他人事になってしまう懸念があるのではないかと感じた。</li> </ul> <p>※ 建物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 玄関から入るとすぐに大きな階段があり、開放感がある造りであると感じた。</li> <li>➤ 図書館が小学生用と中学生用に分けられていることは良いと思った。</li> <li>➤ 小学校と中学校の教室はほぼ同じ造りであり、中学校はもう少し変化があっても良いと感じた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2校とも、とても素敵でした。</li> <li>➤ 長岡東中学校は大きな窓ガラスで、明るく開放的だが、夏は暑く冬は寒く、雪国には合わない建物であると思った。</li> <li>➤ 屋内の運動施設を整備して避難所として使えるのは、地域の人達にとっても良いことだと思う。</li> <li>➤ 2校ともにエレベーターやバリアフリーに対応している多目的トイレ等を設置し、良いことだと思う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2校ともに設備が大変整っていた。このような環境で学校生活を送ることができれば良かったと思ったと同時に、2校の児童生徒が羨ましいと思った。</li> <li>➤ 地域と学校が連携した活動について、興味深く説明を聞かせてもらった。加茂市の小中学校も更に地域と触れ合う機会が多くなると良いと思う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 教科センター方式について、中学校で取り入れるのは有効かと思うが、小学校では難しいと思った。</li> <li>➤ 三条嵐南小学校は仮に30人学級になっても教室が狭く感じた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2校ともに想像以上のものであった。</li> <li>➤ 「地域のサポート、連携」を強く感じた。</li> <li>➤ 環境に馴染めない子どものために、教室へ直接行くことができる造り・工夫。(不登校にならないよう登校して学ぶ環境づくり。)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 2校ともに敷地の広さ、工夫された校舎・設備に圧倒された。</li> <li>➤ 特別支援教室や不登校児童生徒への配慮、相談室の数など、今の児童生徒の実態を踏まえた環境になっていると思った。</li> <li>➤ 三条嵐南小学校・第一中学校の教室が思いのほか狭いと感じた。机間巡視が大変。広い廊下や多目的スペースがあっても、教室自体が狭い印象。</li> <li>➤ 三条嵐南小学校・第一中学校では教職員数が多く、職員間の共通理解が細やかに行われているのだろうかと思った。</li> <li>➤ 旧三条南小・旧条南小・旧四日町小の歴史を伝える展示室を設けているのは良いことだと思う。</li> <li>➤ 2校ともに日々の安全点検、日直の見廻り等、大変だと思う。</li> </ul>

### 3. その他（今後の検討委員会で話題にしてみたいこと等）

委員名	感想等
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 今回の2つの学校はいずれも開放的な空間が印象に残ったが、学習の場としての機能を考えると閉ざされ、外部の刺激が伝わらないことが求められる場面もある。特に特別支援の子ども達に視覚や聴覚の刺激を少なくすることは重要。開放的であっても閉ざすことができる空間が大事。</li> <li>▶ コンクリート打ちっ放しや金属製の壁は機能面で課題が多い。掲示板スペースで画鋏が使える、釘を打って施設の変更を加えられるなど、作品展示や掲示を行いやすくする視点も重要。</li> <li>▶ 教育活動を展開する場として、必要な機能を細かく洗い出して、それらが損なわれない校舎を造ることが大事。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 加茂市の未来を担う子ども達をどのような子ども達に育てたいか。（例えば、重点目標に掲げる「ふるさと加茂を愛する子ども」など。）「加茂市がねらう・願う子どもの姿」を明らかにする。この姿を明らかにすることで、どのような校舎・施設が良いのか、統合等の可否が見えてくるのではないか。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 教職員にとって働きやすく、学校にもプラスになる環境とは何か。教職員の負担が過大になることなく、これからは地域と教職員が一緒になって児童生徒を育成することを考えなければならない時代。教職員が手不足なところは、どの程度地域がフォローできるのか？ボランティアの方々も、負担が過大にならずに学校活動や地域活動に参加するには？</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 長岡東中学校の教科毎に教室を移動する方式が気になりました。</li> <li>▶ 部活動では教職員や外部指導者の確保等、どこの学校でも苦勞しているようだが、OBや地域の方々から助けをもらうことを考え、教職員の負担減に繋がれば良い。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 検討委員会で話題にすることではないが、どのような形になっても地域・保護者への意識向上を図っていかねばならず、どのようにして意識を変えて行くのかも課題になると思う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 児童生徒が減少する中、統合等はやむを得ないと思う。地域コミュニティー、防災、どちらも大切なこと。</li> <li>▶ 部活動の在り方が問われる中で、子ども達の意見を尊重しながら希望に添えられれば良いかと思う。</li> </ul>

## Ⅱ 加茂市における望ましい教育環境等について ～グループワーク～

### テーマ：「10年後の加茂市の教育環境・学校施設は？」

#### ① 進行役・発表者を決めましょう。

#### ② 意見・要望などをどんどん書いて、どんどん貼りましょう。

- ・これまでの検討委員会の説明、議論、視察等はなかなか難しいことが多かったのですが、ここは難しいことは気にせず、お金がかかることも考えず、10年後の加茂市の小中学校はこうあったら良いな、子ども達にこういった教育を受けさせたいな、子ども達が通いたくなる学校って何だろう…等々、思い当たることを何でも良いのでどんどん付箋紙に書いて、用紙にどんどん貼ってみましょう。
- ・例)「加茂独自の教科を取り入れる」、「クラス替えがある学校へ」、「部活動はやめて地域移行へ」、「中学校には教科毎の専門教師を複数配置」、「機能的で誇れる校舎を建てよう」、「給食の充実・食育の推進」、「加茂市はICT授業先進市へ」、「児童生徒の学習成果を広く市民に発表する機会が欲しい」、「中学校に受験対策特化クラスを開設」、「防災教育を重点的に」などなど、現実離れかもしれないことでも大歓迎です！

#### ③ 貼った付箋紙をテーマ毎に分けてみましょう。

- ・「地域との連携」、「部活動」、「特色ある授業」、「小中連携」など、テーマ毎に付箋を分けてみましょう。

#### ④ 「10年後の加茂市の教育環境・学校施設は？」について話し合ってみましょう。

- ・出し合った意見をもとに、グループメンバーでさらに話し合ってみましょう。
- ・グループ毎に10年後の加茂市の教育環境・学校施設の題目も考えてみましょう。

#### ⑤ グループ毎に発表・プレゼンテーションをしましょう。

- ・自分のグループが考えたユニークな加茂市の10年後を、他のグループにプレゼンしてみましょう。

- ・「加茂市の望ましい教育環境等」に関する答申の重要なヒント・アイデアになります！
- ・他市町村では考えられない発想も必要です！
- ・加茂オリジナルの教育をどんどん出し合いましょう！



II 加茂市における望ましい教育環境等について ～グループワーク～

(参考) 加茂市が目指す子どもの姿

「自ら考え 心豊かで たくましく生きる ふるさと加茂を愛する子ども」

テーマ：「10年後の加茂市の教育環境・学校施設は？」



グループ

題目 (キャッチコピー) :

学校規模・学級規模

地域との連携

小中連携

特色ある教育活動  
(ふるさと愛を育む授業など)

ICT教育

部活動

例

教職員の配置・姿

学校施設

登下校の安全  
(スクールバスなど)

例